

佐世保工業高等専門学校	開講年度	平成29年度(2017年度)	授業科目	日本語表現法
<b>科目基礎情報</b>				
科目番号	0001	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	複合工学専攻	対象学年	専1	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	大学生のための文章表現&口頭発表練習帳			
担当教員	田崎 弘章			
<b>到達目標</b>				
1. 日本語による文章表現の基礎知識（用字・語彙・文法等）を正確に身に付けています。 2. 他者の文章を正確に理解し、それに対する自らの考え方を的確に表現することができる。 3. 必要な情報を収集・整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめることができる。 4. 目的や場に応じて、言葉遣いや文体等を工夫して文章表現することができる。 5. 用語の適切さや使用上の効果を吟味し、自らの表現や推敲に役立てることができる。				
<b>ルーブリック</b>				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	日本語による文章表現の基礎知識（用字・語彙・文法等）を正確に身に付けています。	日本語による文章表現の基礎知識（用字・語彙・文法等）は不十分であるが、身に着けようとする意欲がある。	日本語による文章表現の基礎知識（用字・語彙・文法等）が不十分であり、身に着けようとする意欲に乏しい。	
評価項目2	他者の文章を理解し、それに対する自らの考え方を的確に文章で表現することができる。	他者の文章を理解しようと努力し、それに対する自分なりの考え方を文章で表現することができる。	他者の文章を理解しようとせず、それに対する自らの考え方を文章で表現することもできない。	
評価項目3	必要な情報を収集・整理し、目的や場に応じて言葉遣いや文体を工夫し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめることができる。	必要な情報を収集した後、目的や場に応じて言葉遣いや文体を考え、意味の伝わる文章にまとめることができる。	必要な情報の収集・整理ができず、目的や場に応じて言葉遣いや文体の工夫をせず、文章にまとめることもできない。	
<b>学科の到達目標項目との関係</b>				
<b>教育方法等</b>				
概要	伝えたいことを分りやすく的確に表現するためには、日本語の語彙、文法、文体、表記法など、日本語そのものに対する理解を深める必要がある。本授業では、まず日本語について言語学的に学び、その運用（表現法）について実践を通して身に付けていくことを目的とする。			
授業の進め方・方法	座学を中心として授業を進めていく。必要に応じて適宜発問し、学生に回答を求める。授業では、学んだ内容を反映した形で、各自が文章の実作に取り組むことを求める。そして、そこで書かれた文章については、可能な限り教材として授業に還元し、授業の場において公開添削・推敲という形式で、より適切な文章表現のあり方を探ってゆく。			
注意点	成績の評価は、「定期考査」の成績を80%、これに授業中に作成を求める作文（「特別研究の内容紹介」等）の評価を20%分加味し、100点満点で評価する。合格は60点以上とする。			
<b>授業計画</b>				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1週	日本語の構文・膠着語の特色	日本語で書かれる「文」の特徴を、構成要素である文節・単語から解き明かし、分かり易い表現の在り方が理解できる。	
	2週	日本語の文体・表記法・敬語表現	「文章」を構成する各々の「文」について、適切な並べ方およびその接続の仕方、段落（パラグラフ）の形成等が理解できる。	
	3週	日本語の文章の特色	「文章」を構成する各々の「文」について、適切な並べ方およびその接続の仕方、段落（パラグラフ）の形成等が理解できる。	
	4週	分りやすい文章に求められるもの	段落の構成、事実と意見の区別、引用、全体と細部の関連等、「文章」作成の基本となる考え方が理解できる。	
	5週	分りやすい文章に求められるもの	段落の構成、事実と意見の区別、引用、全体と細部の関連等、「文章」作成の基本となる考え方が理解できる。	
	6週	文章を書き始める準備	主題（テーマ）の設定および文章全体の構想（アウトライン）作成について、基本的な考え方および方法が理解できる。	
	7週	文章を書き始める準備	主題（テーマ）の設定および文章全体の構想（アウトライン）作成について、基本的な考え方および方法が理解できる。	
	8週	意見文等の実作演習	具体的なテーマについて、取材・記録・実験データ等を集め、それに基づく文章表現を試みる。その際、読者の理解に対する配慮を重視し、分かり易い文章として書くことができる。	
2ndQ	9週	意見文等の実作演習	具体的なテーマについて、取材・記録・実験データ等を集め、それに基づく文章表現を試みる。その際、読者の理解に対する配慮を重視し、分かり易い文章として書くことができる。	
	10週	意見文等の実作演習	具体的なテーマについて、取材・記録・実験データ等を集め、それに基づく文章表現を試みる。その際、読者の理解に対する配慮を重視し、分かり易い文章として書くことができる。	
	11週	推敲と清書	前週に書き上げた文章を推敲し、完成原稿を作成する。その場合における着眼点および具体的な方法について学ぶ。感性原稿を学生間で相互に批評し合い、より良い表現・推敲のあり方が理解できる。	

	12週	推敲と清書	前週に書き上げた文章を推敲し、完成原稿を作成する。その場合における着眼点および具体的な方法について学ぶ。感性原稿を学生間で相互に批評し合い、より良い表現・推敲のあり方が理解できる。
	13週	日本語における話し言葉	口頭発表等、話すことについて、基本的な考え方と方法について理解できる。
	14週	言語表現の周辺領域	ノンバーバルコミュニケーションについて理解できる。
	15週	豊かな表現を目指して	論文、報告、手紙、創作（詩歌・小説等）等、様々な文章のスタイルを学び、状況に応じた適切な表現をすることができるようになる。
	16週	前期定期試験	

**評価割合**

	試験	課題作文	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100